

鉄道総研の

技 術

遺

産

File No.6

後藤新平と鉄道

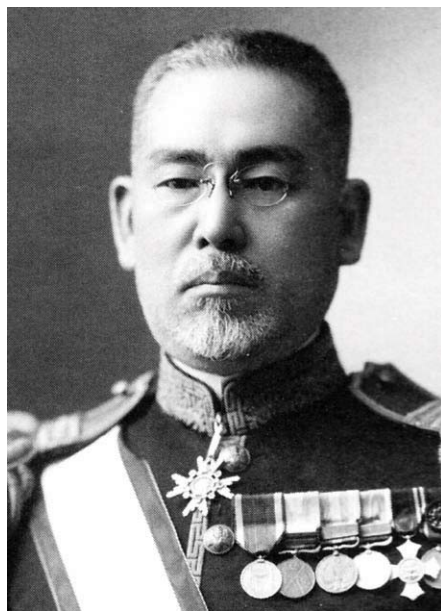
■ 鉄道総研の胸像

鉄道総研の講堂の前に2つの胸像が鎮座し、私たちが静かに見守っています。向かって右側が床次竹二郎、左側が後藤新平という人物です。後藤新平の名は、日本の近代史の重要な場面ではしばしば登場するので、一度は聞いたことがあると思いますが、具体的にどのような人物であったのかは、意外に知られていません。今回は、この後藤新平について紹介してみたいと思います。

■ 後藤新平とは？

後藤新平は、さまざまな事業に関与していたので、そのイメージは人それぞれかもしれません。後藤は、藩閥や学閥とも無縁で、特定の団体にも所属していませんでしたが、それゆえに自らの意思でリーダーシップをふるうことができ、政治や外交の最前線からボーイスカウトに至るまで、縦横無尽に活躍しました。

後藤新平の伝記は、すでにいくつか出版されていますので、詳細はそちらに譲りますが、後藤は1857(安政4)年に現在の岩手県水沢市で士族の家庭に生まれ、藩校を経て福島県の須賀川



①後藤新平(1857～1929)

医学校へ進み、医師となりました。愛知県病院を皮切りとして、同院長、愛知医学校校長と進みましたが、1883(明治16)年に内務省衛生局に採用され、ドイツへ留学して北里柴三郎とともにロベルト・コッホの下で医学を深め、1892(明治25)年に帰国して、内務省衛生局長に就任しました。

1898(明治31)年には台湾総督府民政局長(のち民政長官)に就任して台湾へ渡り、台湾縦貫鉄道の建設や社会基盤施設の整備にあたりました。その手腕を乞われ、1906(明治39)年には南満洲鉄道初代総裁に就任し、清国やロシアの要人と交渉を重ねて、経営基盤を固めました。

1908(明治41)年に、通信大臣に就任し、発足したばかりの鉄道院総裁を兼任しました。さらに、内務大臣、外務大臣などを歴任し、1920(大正9)年には東京市長となり、1923(大正12)年の関東大震災後に創設された帝都復興院総裁に就任して、震災復興事業を推進しました。このほか、日本少年団



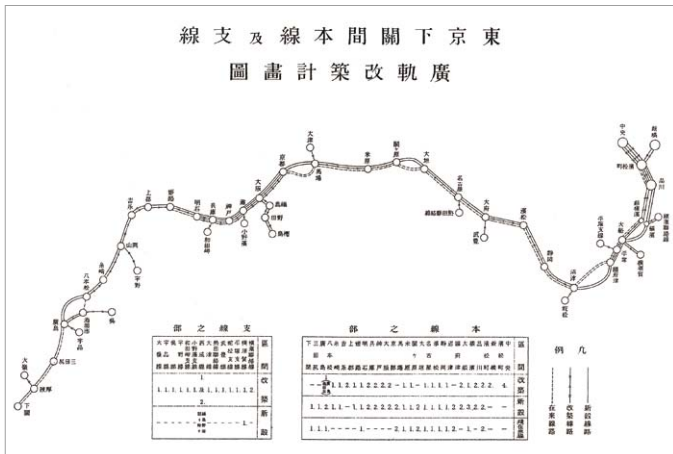
②「鉄道院総裁後藤新平」胸像
鉄道総研の講堂横に鎮座し、鉄道の未来を見守っている。

連盟(現在のボーイスカウト日本連盟)総裁、東京放送局(現在の日本放送協会の前身組織)総裁などを歴任しましたが、1929(昭和4)年、講演のため岡山へ向かう列車内で発病し、同年4月13日に入院先の京都府立病院で73歳の生涯を閉じました。

■ 鉄道との関わり

後藤新平は、台湾総督府や南満洲鉄道などで外地の鉄道と関わり、鉄道院では初代総裁として、国有化されたばかりの鉄道を大家族主義でまとめ、常磐病院(現在のJR東京総合病院の前身)や中央鉄道教習所(のちの中央鉄道学園)の設立、共済組合制度の実施などの功績を残しました。

後藤は、狭軌鉄道であった日本の鉄道を広軌に改築し、鉄道の輸送力を高めることが必要であると主張し、1911(明治44)年に広軌鉄道改築準備委員会を発足させ、その具体的な検討を開始しました。しかし、広軌改築よりも新線の建設を優先すべきとする政



③東京下関間本線及支線広軌改築計画図

東京—下関間の広軌改築の具体的計画を示した図面。
『広軌鉄道改築準備委員会調査始末一斑』広軌鉄道改築準備委員会(1911)より



④現在の清洲橋(国指定重要文化財)

隅田川に架かる震災復興橋梁群は、鉄道省から出向した技術者が中心となって完成し、今も東京の重要なインフラストラクチャーとして機能している。



⑤胸像の銘

国鉄OB会による再建の旨が記されている。

友会の猛反対に遇い、政治論争として政変のたびに浮沈を繰り返した末に中止となり、実現には至りませんでした。

また、関東大震災の復興事業を行うための組織として発足した帝都復興院(のち内務省復興局)では、事業にあたる人材を鉄道省に求め、土木局長の太田圓三を筆頭として、平山復二郎(道路課長)、田中豊(橋梁課長)、釘宮磐(隅田川出張所長)が出向しました。

帝都復興事業は、鉄道や道路の整備、都市基盤施設の拡充を含む総合的な事業でしたが、出向した鉄道技術者はそれぞれの持ち場でこれを推進し、大震

災で大きな被害を受けた首都をより近代的な都市へと再生させました。また、帝都復興院経理局長として、鉄道省経理局会計課長であった十河信二が就任しました。

■ 胸像の由来

後藤新平と床次竹二郎の胸像は、1937(昭和12)年12月に鉄道省庁舎(のちの国鉄本社旧館：東京都千代田区丸の内)の完成を記念して、両者を追慕する鉄道職員の拠出金によって庁舎内に設置されたもので、彫刻家の朝倉文夫の作品です。しかし、この胸像は戦

時中の金属供出で失われてしまったため、1983(昭和58)年5月に国鉄OB会創立三十周年を記念して、国鉄中央鉄道学園構内(東京都国分寺市)に再建されました。

しかし、中央鉄道学園は、1987(昭和62)年の国鉄の分割・民営化にともなって閉鎖されたため、これを鉄道総合技術研究所が継承し、今日に至っています。



後藤の性格は、しばしば「大風呂敷」と揶揄されましたが、将来に対するヴィジョンを明確に示し、これを迅速に実行することに長けていました。その姿勢は、下僚であった十河信二へと継承され、後藤が実現できなかった広軌鉄道の夢は、東海道新幹線として実現しました。

(小野田滋／情報管理部 担当部長)

文献

- 1) 鶴見祐輔『後藤新平(全4巻)』後藤新平伯伝記編纂会(1938)
- 2) 御厨貴編『時代の先覚者後藤新平』藤原書店(2004)
- 3) 越澤明『後藤新平—大震災と帝都復興—』筑摩書房(2011)